

令和元年度百合便り校長だより3月号

新型コロナウイルス感染拡大が収まることなく、不安な日々が続いていますが、体調等変わりないでしょうか。

全国的に3月2日から臨時休業となり、本校でも同様、連絡もすべて通信ツールとホームページという状況は、いまだかつてなかったことだと思います。しかしながら、いのちにもかかわりかねない状況での判断です。そこからそれぞれが良い方向に行動することが大切なのだと思います。

まずは事務連絡となりますが、臨時休業となってから家庭学習課題や健康状態確認連絡の開始などの連絡を出しています。課題の中には4月提出のものもあります。また、状況にもよりますが、3月27日を急遽、登校日として設定しました。ご確認のほどよろしくお願ひします。

さあ、そんな中行われた卒業式でした。卒業生と職員のみ。入場の拍手の寂しさに、分かっているも、43期生には申し訳ない思いが込み上げました。しかし、式が進むにつれ、43期生自身が拍手し始めました。代表への卒業証書授与、答辞、送る言葉、記念品贈呈、校歌斉唱その一つ一つが終わるたびに拍手が起りました。予行練習もない卒業式でしたが、43期生はきちんと式典を作り上げてくれました。

43期生にとって最後となる校長の言葉を伝えたくのですが、実は43期生は百合高に来た年が同じということもあって、同期として今年は式辞を書き上げました。テーマは「生きる」です。この3年間の百合丘の変革を見てきた彼らだからこそ、このテーマを選びました。

生きるということは、「やめることができない、進み続ける」ということ。そのために「意義」を探し、判断して自分なりの価値を与え、形にするために行動する。それを繰り返し、時間を重ねることが「生きること」であり、自分自身を作ること。意義は、一人ひとりが感じ、自分たちで生み出す「価値や重要性」、自分の答えでいい。そして、先の見えない、変わり続ける時代を生きていくために私たちがしなければならないことは「変化し続ける」ことだと話しました。そして最後に「変化する状況の中で、人間が自分自身を貫く可能性は、目標に忠実でありながら、状況に応じて変化することにある。」とチャールズの言葉を伝えました。

43期生はとても静かに、聞いてくれました。形が変わってしまった卒業式でしたが、その変化に合わせて、彼らが作り上げた卒業式もやはり生きている時間だと、式中感心してしまいました。最後の最後まで「変化」を経験した43期生です。自分らしく清新澆刺と生きていってくださることを願うばかりです。そして保護者の皆様におかれましても 卒業おめでとうございました。

さあ、4月号は通常生活の中で発信できることを期待して、令和元年度校長だよりを終了したいと思います。

おまけ 2月号の解答

A群1～7に対して、B群の答えは5,1,2,3,4,7,6です。

A群

- 1 be trapped like a rat
- 2 rat on
- 3 rat race
- 4 as quiet as a mouse
- 5 like a drowned rat
- 6 smell at a rat
- 7 play possum

B群

- 1 密告する
- 2 競争社会
- 3 とてもおとなしい
- 4 びしょぬれになる
- 5 袋のネズミ
- 6 死んだふりをする
- 7 嫌な予感がする